

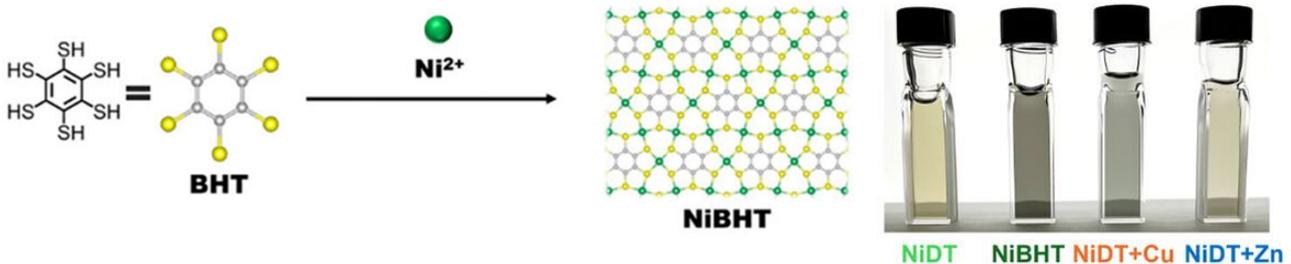
2026年3月9日
日本材料技研株式会社

配位ナノシート (CONASH) に関する 東京理科大学とのライセンス契約の締結について

日本材料技研株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長 浦田 興優、以下「当社」）は、このたび、学校法人東京理科大学（以下「東京理科大学」）との間で、配位ナノシート（CONASH： Coordination nanosheet、以下「本材料」）に関するライセンス契約（以下「本契約」）を締結しました。

本材料は、東京理科大学研究推進機構総合研究院の西原寛教授らにより開発され、2013年に初めて報告された有機・無機複合型の二次元高分子です。金属イオンと有機配位子から構成されており、金属種や配位子の組み合わせを変えることで、電子特性・磁性・触媒活性など多様な機能を発現させることが可能です。また、本材料はコロイド溶液としてインク化でき、塗布や印刷による薄膜形成にも対応します。センサー材料、触媒材料、電極材料など、今後のデバイス材料として幅広い分野での応用が期待されています。当社は、本契約により取得した独占的通常実施権を活用し、デバイスメーカー等への本材料の供給を通じて、早期の事業化を推進してまいります。

＜本材料の構造とコロイド液の外観*＞



* M. Ito, N. Fukui, K. Takada, et al. "Rationally Engineered Heterometallic Metalladithiolenes with Defined Atomic Arrangements." *Small* 21, no. 38 (2025): 2503227.

当社では、これまでに二次元層状化合物 MXenes、導電性高分子 PANI など、電気特性に優れたエレクトロニクス材料のラインナップ拡充に取り組んでまいりました。近年、エレクトロニクス製品の高性能化により、高導電性や電磁波シールド性などの電気特性に関するニーズは急速に高度化・多様化しており、今後も当社では、革新的な材料技術の製品化によりこれらのニーズに応えてまいります。

当社は、国内企業や大学・研究機関等で開発された革新的技術について、ライセンスアウトやカーブアウトを通じた事業化に取り組んでまいりました。今後も未活用の革新的材料技術の商業化を進めることで、日本の素材産業におけるイノベーション創出に貢献してまいります。

以上